



こくら丸  
KOKURA MARU

こくら丸





こくら丸





砂津港出港





砂津港出港





砂津港出港





新日鐵住金：小倉



門司港方面





カワウが伴走





彦島





左から  
馬島、六連島、彦島





磯のウミウ





馬島





馬島港





馬島港出港





藍島









藍島：本村港





ウミネコ





下関方面を眺望





アオサギとウミウ





北九州方面を眺望





岩礁上のウミネコとウミウ





ウミウとウミネコ





ジョウビタキ





ハクセキレイ





本山漁港





白須灯台





シヨウビタキ





ショウビタキ





ジョウビタキ



# 貝島古墳群

かい しま こ ぶん ぐん

藍島は北550mの海上に浮かぶ貝島に6世紀前半から後半にかけて造られた13基の古墳群があります。いずれも単室横穴式石室を主体とした小型の円墳群です。

昭和44年(1969)、北九州市教育委員会によって3基の発掘調査が実施されました。そのうちの一基は、羽子板型の石室の片側に板石を立てる石障で区画した屍床区しよくを設けたり、石室の石の積み方は竪穴系横口式石室の終末期の様相を示していたりとあまり市域には例を見ない古墳です。古墳からは、剣・刀子・鏃などの鉄製武器のほか、銚頭、釣り針などの鉄製の漁労具が出土しました。中でも、豊富な漁労具の出土は全国的にも珍しく、被葬者たちが海人族であり、銚頭でクジラ、イルカなどを捕る刺突漁法と、釣り針でサメ、マグロなどを釣る釣漁法がこの頃すでに行われたことを示しています。

藍島は「日本書紀」仲哀期に「阿閉島」として登場します。また、神功皇后の新羅征伐に登場する「吾瓮海人烏摩呂」という海人族は、藍島の海人族だとも推定されています。

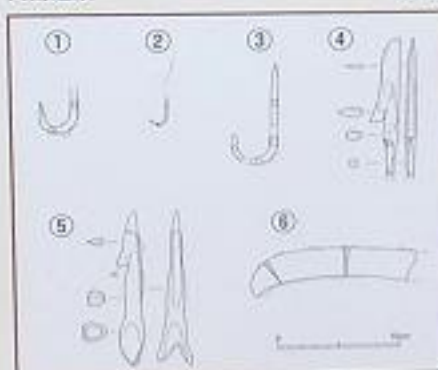
藍島の海人族は外洋で漁労を行う中で習得した高い外洋航海の技術を持って、ヤマト政権の朝鮮半島への出兵に際し水先案内人として活躍したものと思われます。それは、貝島古墳群から出土する豊富な鉄製武器に表れています。



貝島遠景



貝島4号墳の石室



貝島古墳群の鉄製漁労具  
(1・2・3.釣り針, 4・5.銚頭, 6.漁刈り用の鏃)



貝島古墳出土の鉄器

北九州市教育委員会







手前：貝島と蓋井島





白島：女島と男島





白島石油備蓄基地遠景





蓋井島と灯台





沖の灯台





千疊敷





千疊敷





千疊敷





ミサゴ





セグロカモメ





アオジ





ショウビタキ





シジュウカラ





モズ





小倉丸





藍島





馬島港





馬島と彦島





巡視艇





響灘工場地域





新日鐵住金：八幡





九州電力：新小倉PS





門司港方面





砂津港